

## 令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○学習意欲の喚起を基軸とした教科横断的なカリキュラム・マネジメントに取組み、生きて働く知識・技能の習得及び学びに向かう力、思考力・判断力・表現力を育成する。	①確かな学力育成と生徒の学習意欲の向上のために、課題解決を中心とした単元計画を立て、教科の専門性と寒高アーツ（教科横断的に育てたい力）を活用した授業を考える。  ②個別最適化された学習の導入とデジタル教材の利用法について、研究を行う。	①育てたい力を念頭に学習評価を考え、その力を伸ばすための単元計画の中で、寒高アーツを意識した学習活動やICT機器等の活用、生徒への働きかけ方を授業のユニバーサルデザインの観点で見直し、わかりやすく取り組みやすい授業を行う。  ②1年次のマナベーシックで、一人一台端末に対応したデジタル教材を導入し、個別最適化された教材を利用し、生徒の学習に対する理解度を高める。また、デジタル教材で得られた生徒の学習状況を教科指導に活用する。	①授業を通じて、生徒の能力が伸長したか。また、その評価方法が適正であったかの検証ができたか。  ②生徒の学習に対する理解度を高めることができたか。また、デジタル教材で得られた生徒の学習状況を教科指導に活用できたか。					
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①基本的生活習慣を確立させ、規範意識を醸成するとともに、安心して学校生活を送れるように生徒の心のサポートを行う。  ②生徒が自ら考え行動する活動を通じて、責任感や連帯感の醸成と達成感が得られるよう生徒会活動を充実させる。	①生徒が安心して学校生活を送り、自ら生活を律する力を身につけることを目指す。そのために、教職員と生徒の信頼関係を基盤とした日常的な関わりの充実を図り、組織的な生活指導体制を通じて、課題の早期発見と未然防止を推進する。  ②生徒が困り感を安心して発信することができるよう環境を整え、生徒に寄り添った支援を行う。  ③生徒が主体的に特別活動に取り組み、他者と協働して成果を挙げることにより、自己肯定感を高めることができるよう支援する。	①日常的な声かけや登下校指導、交流当番などを通じて生徒との信頼関係を深め、情報共有や協働で生活上の変化に早期に気付ける体制を強化する。また、服装・頭髪、交通安全、マナー等の基本的生活習慣に関するキャンペーン指導を全教員の共通理解のもと実施することで、生徒の意識付けと規律の維持を図り、課題の早期発見・未然防止につなげる。  ②日頃の声かけや面談等をとおして生徒が安心して相談できる関係を構築し、生徒の困り感を収集し、その解決に組織として対応する。  ③委員会活動や学校行事等の意義について、生徒の理解を深めることにより、生徒が主体的に取り組む姿勢を涵養し、その成果を評価することによって生徒の自己肯定感を高める。	①遅刻・欠席・服装指導などの対応件数や改善率、年間の指導実績を基に、課題を明確化できたか。また、生活習慣アンケートの結果から、生徒の学校生活に対する安心感や教員との信頼関係が変化したか。さらに、年間の指導記録や教員による振り返りを通じて、指導の効果や課題を定性的に検証できたか。  ②生徒が安心して相談できる環境が整っているか、また、生徒の困り感に組織として対応できているか。  ③生徒会活動、委員会活動、学校行事等をとおして、生徒が達成感や満足感を得ることにより、自己肯定感を高めることができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○社会的・職業的自立のために、生徒に自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観や職業観を基盤として主体的に進路を選択する能力を育成し、生徒一人ひとりの進路実現につなげる。	①生徒が自己の進路に対して主体的に向き合い、卒業時には適切な進路決定がなされるよう、細やかな進路指導を実践する。 ②多様な職業体験の機会を提供し、生徒が実社会との接点を通じて進路意識を深められるよう、学校全体で参加を促進する体制を構築する。	①1年次からの計画的なキャリア教育と3年次における個別支援体制を強化する。とりわけ進路未決定者への重点的な支援を実施し、卒業時の進路未決定率を10%未満とすることを目指す。 ②地区インターンシップや仕事のまなび場などの体験活動や職場見学などを実施し、進路ガイダンスなどで体験活動の重要性を説明し、担任・学年団による個別案内や声掛けを促す。体験後の振り返りや発表をさせる。	①1・2年次の進路意識形成の取り組み状況や3年次の重点的支援の運用状況が向上したか。また、卒業における進路未決定者の割合が減少したか。 ②学校全体での体験活動の案内や働きかけが効果的に実施できたか。また、全体の参加率、活動回数が増加したか。 アンケートや振り返りを行い進路意識の変化や明確化につながっているか。					
4	地域等との協働	○寒川町唯一の高等学校として、寒川町や近隣地域、小中学校の期待に応え、地域に親しまれ、地域とともにあら学校づくりを進める。	①中学生や地域に向けて、寒川高校の教育内容や魅力・特色を適切に情報発信する。 ②HP等に寒川高校について、理解しやすい情報を適切な時期に掲載する。	①潜在的・本質的に必要とされる、本校の教育活動の在り方を検証し、広報活動に取り込む。また、地域と連携した活動に取り組み、地域が寒川高校について知る機会を増やす。 ②寒川高校の様子がよりよく伝わるようにHPやSNSの内容を整理する。	①中学生や地域に潜在的・本質的に必要とされる本校の広報活動を展開することができたか。 ②HPに最新の情報を掲載し、更新することができたか。また、SNSでの情報発信を定期的に行う仕組みを継続運用できたか。					
5	学校管理 学校運営	○事故・不祥事防止を徹底し、地域から信頼される学校づくりに努め、持続可能な学校運営と生徒に寄り添った教育を継続するための「働き方改革」を推進する。	①施設等の管理・調整や学校全体の業務時期の調整を行うことで「働き方改革」を推進する。 ②風通しのよい職場環境を推進し、継続して事故・不祥事防止に取り組むことのできる環境を作る。	①業務の効率化の視点を持ち、施設設備の管理や各グループの業務時期の調整を行うことで、持続可能な効率のよい学校運営に取り組む。 ②職員が、継続して事故・不祥事防止に取り組むことができるよう、業務効率化を推進し、ゆとりある職場環境を作る。	①業務効率化の視点から調整を通じて、効率のよい学校運営を進めることができたか。 ②職員が、事故・不祥事防止に対して、積極的に取り組むことはできたか。					